Ⅰ.意向調査結果報告

策定委員

01:鹿児島いずみ農業協同組合　阿久根事業所
久保　秀幸　所長

02:阿久根商工会議所
西　勘三郎　会頭
黒川 健二　専務理事、岩崎 隆治　事務局長

03:北さつま漁業協同組合
砂畑　奉作　代表理事組合長

04:阿久根駅前通り会
若松　光志　会長

05:阿久根市観光協会
岩崎　益男　会長
質問票による回答

06:肥薩おれんじ鉄道株式会社
古木　圭介　代表取締役社長
電話による回答

策定委員以外

07:阿久根市郷土史会
濵之上　訓衛　会長

08:阿久根市水産研究会
濱崎　敬史　会長

09:社団法人出水郡医師会立阿久根市民病院
尾上　博美　事務部長
個人として回答

10:NPO法人ビゴップ
大友　恵子　理事長

阿久根市策定委員

11:阿久根市策定委員

01：鹿児島いずみ農業協同組合　阿久根事業所
久保　秀幸　所長

【JAの取り組み】

·阿久根では、ボンタン、タケノコ、シノエンドウが特産。特に大正樹デコポンは阿久根固有の特産
·JAいずみでは11月23日に、3～4万人集客する規模の直売販売会を行なっている。
·地産地消として、米飯の提供や、鶴翔高校と特産品の開発を一緒に行なっている。
·グリーンツーリズムは、出水では行なっているが、阿久根では、大きな専業農家がなく、受け入れ態勢がないため、行なっていない。
·漁港とも交流があり、参事と常務が兄弟なので連携はとりやすいと思う。
·首都圏などのへの販売イベントやフェアを市や観光協会と協力を得ながら行なっている。
·脇本地区や三笠地区では、月に一度、JAとAコープで朝市を行なっている。
·長島の道の駅には阿久根からも店が入っている。
·23年度から後継者養成研修を行なっている。

【まちづくりの意見】

·農協と行政が一緒になって、「物産館」のようなものを街の中心部に作って常時販売できる場所が欲しいという組合員の声は多い。
·Aコープなど、農産物のフェアは行なっているが、市内に「直売店」がほしい。
·漁協と農協が手を取り協力して、阿久根の食を発信する「物産館」をつくりたい。
·街中に＜観光バス＞に対応できるぐらいの駐車場と施設規模をもつ物産館などの施設をつくってほしい。
·シンボルロードや駅前広場で＜朝市＞が行えればやりたい。
·海が見える「旧港」のエリアに人が集まる施設があれば良いのではないか。
·新港の先端部に立派な「ウッドデッキ」があるのでもっと活用できるのではないか。
·福岡に規格外の農産物を安く販売し年商6億円の農家経営の直売所（フレッシュパート）があり、こういう店や市もあってよい。

【問題点・課題】

·＜食のまち＞といっても食べる所がなく＜食材＞のまちではないか。出水などでもよい食材をどこでだすのかとよく指摘される。
·AZにはなにもかもがあり、アーケード街の店もAZに入っている。
·3号線沿いには駐車場がなく、買い物のための停車ができないため、街なかへの集客は難しい。人を呼び込む手段が必要。
·まちづくりへの「旗振り役」がいれば、地域住民と一緒になって協力してがんばりたい。
·長く公共施設ができておらず、「人が集まる施設（文化会館や物産館）」をつくって、まちづくり体制を整えて欲しい。

【その他】

·まちづくりの意見のほとんどが海の話であるが、農産物にも光を当てる必要がある。
·阿久根にとって今が一番大切な時期であり、JAも試されている時なので、市民の目をよく考えて行動していきたい。
·いいまちづくりの案ができても動かなければ始まらないので、始まる工夫が必要。とにかく前に進んで欲しい。

02：阿久根商工会議所

西　勘三郎　会頭

黒川 健二　専務理事、岩崎 隆治　事務局長

【商工会議所の取り組み】

·商工会議所の役割として、「各企業を元気づけ、雇用を増やし、交流・流動人口を増やす」ことが第一にある。
·まちづくり研究会を発足し医療とまちづくりの研究や「本港の高度利用」の再開発の提案を行なっている。
·H16に特区研究会の研究報告を提案している。
·店舗前駐車を可能にできないか、これまで国土交通省に提案しているが断られている。
·「まちの茶屋」を1年間、空き店舗対策で行ったが、駐車場の利便性が悪く継続できなかった。

【まちづくりの意見】

·まずは＜食のまち＞＜健康のまち＞の2本柱で阿久根を売りだし、「阿久根に来ると元気になるぞ」とPRできる「医療のまちづくり」を推進すべき。
·転居者が阿久根に帰ってこれる老人にやさしいまちづくりを行う。
·交通の不便さを逆手にとってまちづくりをすすめるべき
·住宅を街なかにつくる場合に助成金をあてるなど、コンパクトシティを目指す。

【まちづくりの提案】

·閉店したダイワの有効活用などにより、まちの中心に「老人福祉センター」などの公的機関を設置して、街をまとめてもらう政策が必要
·食については、1箇所にまとめるより、各店舗の全体の力でがんばっていければいい。
·＜医療ゾーン＞として、市民病院前の道路を特徴的に整備してはどうか。
·「海の駅」の開発などにより、新港、旧港と商店街と連携したまちづくりを進めて欲しい。
·「旧港」では古いものを活かし、釣りや屋台、デッキなど人が集まる整備を行う。
·「新港」は、工場を建ててもらって工場見学や買い物が楽しめるエリアとする。
·「アーケード」はまちの顔としてあったほうがよいが、地域の意見は残すか壊すか半々である。
·商店街の舗装も明るく作りなおして欲しい

【問題点・課題】

·大型店舗出店により商店街に元気がなくなったが、AZにはいろいろ支えてもらっている。
·阿久根には豊かな食材があるが、地域活性化に活かしきれていない。
·昔は各所に温泉があったが、今に活かすためには＜資本＞が必要。
·駅舎はつばめのフンなどで汚いため、自動ドアにする必要がある。
·「駅前広場」は駐車場も狭く、広場の配置ももったいない。
·船に乗って阿久根大島に行くには相当の魅力がないといけない。まだ中途半端である。
·まちづくりをひっぱる人材がおらず、人づくりの事業は行なっていない。しがらみのない外から来た人が旗振りをしてもらったほうがいいのではないか
·大丸のアーケードは補修しているが、駅前商店街のアーケードは道路占有料と維持管理の負担金も厳しく、2，3年後に取り壊すのではないか。
·新幹線が通らなかったせいで出水に家をつくるようになり、正月の観光客も減っている。
·雇用を創出して、働く人が集まらないといけない。全国各地の阿久根会で企業誘致をしているが交通の便が悪いのがネックとなっている。
·建設業が少ないため、地元の公共事業を増やして活性化してほしい。

【その他】

·佐潟ゴルフ場計画地跡地をシルバー特区として、行政に活用してほしい。
·阿久根は、何かが決まればよく動く。柱が決まればまとまる気質をもっている。
·各地域に婦人会はあるが、全体としての会はない。
·年50歳組の人材をまちづくりにいかせればいいが。

03：北さつま漁業協同組合

砂畑　奉作　代表理事組合長

【北さつま漁協の取り組み】

·華アジのブランド化
·月に1度、仲買業者の水産研究会による朝市の開催
·年に1度、お盆前後に阿久根新鮮お魚まつりを開催
·市と漁協、学校の先生と協議会を開催し、県内で唯一、中学生を対象に水産教室を行なっている。高校生も呼びかけてはどうかという意見もでている。
青年部：ロープ扱い、あみの修繕
婦人会：魚のさばき方
·市の養成があれば随時水産教室を行なっている。
·地区ごとに「えべっさん」まつりが年に一回開催されている。ご神体が色彩豊かな夫婦のえびすで珍しい。
·旧暦の3月10日には金毘羅祭の大祭が行われ、大島で奉っている。

【まちづくりの意見】

·阿久根は「水産のまちで栄えてきたまち」という意識があり、漁業自体が活性化することで、まちも栄えるという意識を組合員はもっている。
·観光について、かつて観光の取り組み（スキューバー、インストラクター、回遊漁船の活用）などを目標としており、漁協として、協力していかなければいけない。
·マリンレジャーへの海への開放は難しいかもしれないが、何らかの形で漁業者にもお金が回る仕掛けがあれば協力できるのではないかと思う。

【問題点・課題】

·直売の拡大については、仲買人も仕事があり、介入できない面もある。販路は仲買人に任せている。仲買組織の意見も大切である。
·新鮮朝市について、現在の倉庫での継続は、保健所や法律などの衛生条件などにより、陳列販売も難しくなっている。
·ただ港に観光客が来てあつまるでは、作業のじゃまになるため理解を得られない。
·海の利用に対しては、漁業権の絡みがあり、漁業関係者に利益があるかどうかが問題である。
·他の漁協でも釣り施設運営の取り組みをしているが、元手がかかる。経費がかかるものは漁協単独では難しい。有料の釣り施設は、行政がつくるなら反対はしない。
·旧港の施設は、現在船だまりと、仲買人の作業場で利用している。施設が老朽化して危険性が増しているため、施設はそのうち処分、更地を考えている。
·阿久根大島は今では松の倒木が増えている。

【その他】

·8月お盆前後に開催されるお魚まつりでは、2～3万人/日を集めるほどで阿久根の魚には集客の素地がある。
·阿久根大島は、日本水泳振興会が管理している。
·港の使用注意書きなどは、魚釣り客などとトラブルがあり対処しているが、安全が確保され、ルールをもって港を利用するのであれば、強く言わなくてもいいところもある。
·直営のぶえん館について、採算性を考えれば現在の規模でベストではないか。以前、朝食を出していたが、採算が合わなかった。ただし予約があれば夜でも営業する。
·ぶえん館では、待ち時間が長くなると他のいろいろなイベントをしているお店を紹介している。
·阿久根にも以前はツルが渡来していていた。

04：阿久根駅前通り会

若松　光志　会長

【阿久根駅通り会の取り組み】

·3年前から3通り会共同で、100円市とスタンプラリーを実施しており、50店舗参加している。
·アーケードでの植え込み地の樹木の植栽は、地維持管理の手間がかかるので、プランターをおいてそれぞれ管理している。店舗ごとのばらばらのプランターでは形が揃わないので、見苦しいと言われるため、統一したプランターを購入し、設置している。

【駅前通りについて】

·現在のアーケードは片持ち式の梁にして、オープンで利用しやすいなデザインにしてほしい。また、負担金が厳しいため、店舗のない駐車場の入口はアーケードを撤去する。
·歩道はカラー舗装して、点字ブロックは不便で利用もないため、撤去する。
·商店街でも駅広場でのイベントをしていたが、20人～30人程度しか集まらず続かない。
・イルミネーションや照明はつけてもいいが、通りの会からは負担できない。
·大丸通り商店街では、空き店舗対策を行ったが、店舗を開けるには月10万は必要。

【阿久根駅舎ーシンボルロードについて】

·トイレを改装し、綺麗にする。出入口に自動ドアを設置し、寒さやツバメ対策をして綺麗にする。
·駐輪場が足りない（あと100台必要）ため、拡張が必要。観光のレンタル自転車を運営する。
·居酒屋後にセルフサービスの軽飲食コーナーを設置する。
·ロータリーの植え込みの松を減らし、花壇を設置したり、駅ホームにボンタンの木を植える。
·駅裏の空き地は、駐輪場か駐車場利用しか利用ができないのではないか。
·シンボルロードのタイルがほとんど浮いているため、歩道の整備を行う。
·駅から新港、旧港、戸柱公園、遠見が丘公園、番所丘公園までの案内ルート看板を設置する。

【旧港について】

·旧港から新港の遊歩道を整備し、高松川の下流に人道橋を設置して、安全なルートをつくる。
·現在ある建物、鉄骨の屋根はすべて解体撤去、更地にして、芝生や花壇、大駐車場、特産品販売所と飲食スペース（ビアガーデンや夜店、屋台）、をつくり、市民いこいの公園にする。
·休憩所などの建物にはソーラーパネルを取り付け、太陽光発電を最大限取り入れる。
·対岸（光礁）への筏乗り場、阿久根大島への渡船場、案内状、売店をつくる。
·B＆G阿久根にカヌー置き場があるので、カヌー乗り場をつくり海を回遊させる。
·戸柱公園へのアーチ橋を設置して、回遊性を持たせる。
·青果市場を新港付近に移転して、跡地利用する。

【戸柱公園展望台ーグランビュー前庭】

·螺旋階段で10m位の展望台をつくり、グランビューの前庭とを大吊橋で結ぶ
·グランビューから番所丘公園まで回遊する遊歩道を整備する。

【その他】

·最近の子供は海水浴にもいかない。またクラゲ到来が早くなり、安心して泳げなくなっている。
·光礁の降り口の階段が壊れており、改修して海に近づけるようにする。
·ベスト電器の跡地の利用を考える。
·おれんじ鉄道について、鹿児島中央駅発にしてもらわないと利便性が悪く利用できない。

05：阿久根市観光協会

岩崎　益男　会長

質問票による回答

【まちづくりの意見】

･もう自然だけ売りだしてもダメで、小中学生のスポーツ大会の誘致に力を入れる必要がある。
･阿久根のようなローカルな温泉地では、老人等のお客様が多かった。老人が安心して遊べるまちづくりを進めること。
･駅周辺については、駅前だけでなく、旧港を中心とした整備計画が必要。前回のプレゼンでは旧港についての計画がなく残念だった。
･100人委員会が開かれたように、市民の意見が反映されるようにしてほしい。そのうえで市民の協力が得られるのではないか。

【問題点・課題】

･魚の水揚げ量の減少に始まった景気低迷や、新幹線開通に伴うJRの廃止など、様々な原因によりお客様の減少が考えられる。
･JR乗り換えなどの不便なことの多い交通では、客の減少は当たり前なことではないか。
･阿久根市観光の活性化のための施設が少なく充実を図る必要がある。

【海資源の活用について】

･旧港の朝市広場や魚類販売所の設置、食堂等との連携による食の場の創出
･漁業者への体験型漁業の取り組みへの依頼と連携
･海岸線の遊覧観光の実施や夕日を眺める場所づくり

06：肥薩おれんじ鉄道

古木　圭介　代表取締役社長

電話による回答

【まちづくりの意見】

・おれんじ鉄道としては、阿久根の町おこしということではなしに、経営戦略として色々と取り組んでいくことを考えている。阿久根の町おこしの一つのポイントになるだろうが、町おこしのため阿久根駅だけ特別に考えてはいない。
・町おこしには、まず市の人口を増やすこと、それには交流人口を増やすことが大切。そのためには観光を増やすこと。観光はこれからの国の施策の柱でもある。
・現状では、阿久根は交流どころか、人が素通りする町になるだろう。
・阿久根は食はまぁまぁ良いが、宿泊施設が全く伴っていない。
・阿久根は食べさせるところが少ない。ぶえん館はあるが、私は行かない。黒之瀬戸食堂があるがあそこは完璧。
・阿久根でマリンレジャーを行うとしても、結局だれがやるか、そしてビジネスになるかが大切である。現状では着替える施設すらない。
・単なる提案ではなく、企業誘致やマネジメントの会社まで考えて徹底的に示す必要がある。話や構想は良いが中身のないコンサルティングが多い。儲かるビジネスとなる構造が必要
・単なるマニアがあそびでくるような観光ではいけない。
・阿久根大島のような運営を大きな組織（日本水泳振興会）が受けてくれるような企業誘致が必要。

【鉄道運営について】

・貸切列車を止めて物販もしたい。これまで貸切列車を30分ほど停車させたこともある。貸切列車をこれまで125本走らせた。今後200本を目指す。
・ビール列車、ワイン列車、婚活列車、水俣の観光列車などを走らせている。今後は外国人好みする臨時列車も考えたい。
・駅舎は綺麗にしたいと考えている。おれんじ鉄道が県なり国なりの費用で改築を考えているが、すぐには取り掛かれないだろう。

【駅舎について】

・列車のデザイン設計は、東京のコンサルタント会社と契約し、富山の近藤という著名な人にお願いしている。
・駅の改築についての構想や意見はどんどん出してもらっても構わない。今後、東京のコンサルと詰めていきたい。
・駅舎は人が集まる施設にしたい。駅舎の中に特産物売店も設けたい。
・駅舎左の元レストラン部屋スペースは改装したが、市も使わないまま閉めてある。
・駅東側の遊休地はJRとの所有区分があり、調べる必要がある。おれんじ鉄道の土地であれば活用に協力したい。阿久根市に買っていただくのが一番よい。

【駅前広場周辺について】

・NPOの所有するブルートレインの活用は全く考えていない。NPOが持ってきたもので駅とは関係ない。
・ブルートレインの宿泊利用は、ライダーハウスとして一部の者の利用だけである。
・ブルートレインは、マニアックな一部の人達が見に来ているだけで、置いているだけで活かされていない。

07：阿久根市郷土史会
濵之上　訓衛　会長

【経歴】
- 阿久根市図書館長
- 阿久根市企画課長－阿久根市収入役
- 阿久根市誌編纂委員会事務局長

阿久根砲（市資料館展示）

阿久根大島銀座のにぎわい
（昭和40年代）

【阿久根市の歴史について】
- 阿久根は、江戸時代に、河南源兵衛根心（かわみなみげんべえもとなか）の海運貿易を通じて発展。「阿久根は田舎にして田舎ならず」「海があるから、世界に通じている。船さえあればどこにでもいける」とし、昔の阿久根は今よりも賑やかだったのではないか。
- 当時の参勤交代は、阿久根から船ででて、熊本の川尻へ通っていた。
- 16世紀にはスペイン、ポルトガル船も阿久根に寄港し、倭寇の発信基地でもあった。
- ポルトガル砲（阿久根砲）が、県文化財となっており、全国でも貴重な資料である。
- 海上交通のお守りとして、源兵衛が分祀した阿久根大島への旧3月10日の金毘羅大祭の日は、かつて源兵衛が阿久根の慰安を兼ねて無礼講を楽しんだことに由来し、近年まで学校も行政も半ドンで、町をあげて参加し、皆楽しみにして賑わっていた。（阿久根大島銀座）
- 阿久根の黒之瀬は、万葉集で歌われた地の最南端の土地で、1200年前の万葉の時代から有名な場所として知られていた。

  「隼人(はやひと)の薩摩(さつま)の瀬戸を―遠くも我は今日見つるかも」〈万・248）」

  「隼人の湍門（せと）の磐（いはほ）も年魚（あゆ）走る吉野の滝になほ及（し）かずけり〈万・960）」
- 空順法印が祈願して火災が起こらなかったことに感謝して火の神の像が作られている。まちなかにも色彩豊かな像がいくつも置かれている。これらは阿久根だけにみられるもので、また、阿久根の消防車も「くうじゅん1号」と名付けられている。

【まちづくりの意見】
- 阿久根の歴史は古く豊かであり、歴史資料館は、他の施設と一緒になって、大きくて広々とした場所にしていかなければいけない。
- 金毘羅大祭の賑わいを町をあげて復活さえてみてはどうか。
- 小林やえびのの人たちを史跡巡りで阿久根の案内をするとき、7不思議よりも、海につれていくと一番喜ぶ。海が動く波しぶきが見られるのは阿久根しかない。もっと海を楽しむお祭りやPRをしてはどうか。
- 万葉集の歌碑は、長島のほうにはいくつもあるが、阿久根にはなくて残念。まちづくりとして活かしてはどうか
- 全国どこにでもあるものを特産やPRにするのではなく、阿久根しかない自然や歴史でまちづくりをしなければいけない。

【課題・問題点】
- 現在の図書館は、民間（NPO）委託しているため、PRや専門性の発信が難しい。
- 電車が通り、便利になったが、かつて「船さえあればいとやすし」と呼ばれた港という阿久根でしかできないことがなくなって、漁港としてしか生きていけなくなった。
- 河南源兵衛をテーマにした本町の「源兵衛どん祭」はあまり盛りあがっていないと聞いている。
- 阿久根市内だけで観光を動かしてもまちにお金は落ちないので連携して考える必要がある。

08：阿久根市水産研究会

濱崎　敬史　会長

【阿久根市水産研究会の取り組み】

- 月に1度、仲買業者の水産研究会による朝市の開催
- 年に1度、お盆前後に阿久根新鮮お魚まつりを開催
- 東京や大阪などへのシーフードフェアへの出展PR
- B級グルメのサバめしの開発・普及

【まちづくりの意見】

·阿久根の魚については、鹿児島市や大都市に出荷している。阿久根の魚を売るだけなら、阿久根の店を、鹿児島市や大都市、A－Z前に作ったほうが売上が上がり、客も集まる。阿久根の街中で観光や集客目的の魚を売るなら、保健所も規制が厳しいため対応できる販売所が必要。
·観光のソフトについて、行政や漁協主体で運営してもうまく続かない。サービス業を行う民間が運営する必要がある。ハードについても自分たちが管理するものをつくること。
·施設（ハード）は造ることより続けることが難しい。施設をつくるのであれば、まず人の流れを考えてつくらなければいけない。人が来てくれるには仕掛けをつくる必要がある。
·阿久根への交通はそれほど不便とは思わない。昔と同じである。もっと交通環境がわるいところでも観光地として栄えている場所はたくさんある。交通環境を原因にしてはいけない。
·魚は昔ほど獲れなくなったが、売るくらいは十分にある。いかに人をあつめるかが大切である。

【課題・問題点】

·漁師は高く買うと喜ぶ。地元に出しても高くは売れないので、良い魚は東京に行く。昔は、街中にも鮮魚店が3～4店あったが現在は1店。地域が購入してくれて商業ベースに乗らないと店は出せない。
·朝市は、保健所に対応できるものでなくてはならず、現在では設備もスタッフも精一杯な状態。
·ぶえん館は、美味しいという声も聞くが、待ち時間が長く、接客もサービスも一般店舗と比べて悪いのでもう行かないという声も聞く。
·密漁が横行している。暴力団もいることがあり注意しても一蹴されることもある。注意看板は必要。
·漁業は漁獲量の予定が立たず不安定である。魚を安く売るためには、漁業への補填や他港漁船の荷下ろしなどが盛んになるような施策が必要。
·阿久根大島や海をレジャーに開放したいが、漁協との調整がいる。阿久根大島には珊瑚礁もあり、ダイビングスポットもある。入島料を取り、漁協関係者の監視兼のアルバイトをつけて、「潜りツアー」などをするなどの協力に前向きに検討してほしい。

【イベントについて】

·Wazze！かごしまプロジェクトでは、魚の開き体験などのバスツアーを行なっている。バス観光と絡めて、向こうからこちらに来てもらい、修学旅行や体験学習につなげ、グリーンツーリズムやブルーツーリズムに発展させてはどうか。
·観光バスで頻繁に来てくれる流れをつくることが必要。バス1台分（50名）程度なら受け入れ可能。
·日本さかな検定（ととけん）のイベントがあり、阿久根でPR・検定会場を誘致してはどうか。
·町おこしをするには、スタッフが足りず若い者もいない。むしろシルバー人材が活用できる。
·研究会で経費をかけてイベントPRしているが、行政もこうした地域おこしに関する広報のバックアップやサポートも積極的にしてほしい。
·朝市などのイベントに子供たちが来てくれるととてもありがたい。他のイベントと連携したこともあり、活性化させたい。

【駅周辺の整備について】

·駅前の店舗を集中してまとめて、あとは駐車場利用すれば利用しやすくなるのではないか。アーケードもそこだけあればいい。
·駅裏活用については、分断することになるので、駅前に集約してイベントをしたほうがよい。
·シンボルロードで商店街の販売をすればにぎわうと思うが、そのためには、県や市の協議を簡易にできるようにすることが必要。

09：社団法人出水郡医師会立阿久根市民病院

尾上　博美　事務部長

今回伺った阿久根医療についての回答は、事務部長個人のものであり、**病院の公式見解ではない**、との了解の上で、今回お話を伺っています。
病院としての地域づくりの提言については、過去に100人委員会時に代表として述べています。
今後、医療関係とまちづくりの提携を図るためには、医師会との相談の上、協力できる体制づくりが必要です。

【阿久根の医療の状況について】

･老人の独居や、老老介護が全国で増加しており、阿久根も大きな課題を抱えている。
･阿久根市は、個人事業主が多く、予防検診率が低い。
･当院では、開業医との医療の役割分担をおこなっており、紹介状を書いてもらって高度医療の治療を行うことになっている。在宅医療は開業医で行なってもらうことになっている。
･阿久根市内では、医療環境が不足しており、不足する専門医療の分野もある状況である。
･保健所などの医療行政は川内、出水への集約化が進み、人員も減っている
･当病院は医師会により運営されているが、市立と間違われる住民も多い。
･当病院に続く道路は、緊急対応道路としてはぎりぎりの幅であり、違法駐車があると緊急車両が通れなくなる。
･近年は、夜間の緊急車両の通行が多くなり、近隣の人にはサイレン音などをがまんしてもらっている。

【市民病院の取り組みについて】

･市民病院では、出水郡医師会として、医療についての健康講演会の開催を開催している。教育委員会などにも告知しているが、参加者は少ないのが現状。
･夏休み最後の土曜日に、医療への理解を含めてもらうため、病院で健康フェスタを行なっている。
･現在、日常業務での医師の負担も大きいが、地域医療の向上のため、ボランティアで普及活動を行なっている。
･予防検診への理解と参加を進めるために、各集落での医療講演会を行なっており、集落開催の医療講演の参加者は多い。
･医療理解のためのイベントは定期的に行なっており、他のイベントと連携しての当院の医療イベントや、敷地の共有利用は、申し出があれば可能である。
･市民病院から入院患者が外の公園にでる場合、患者の安全を考えて許可制としている。広場と病院の間の道路には横断歩道がなく危ないという声がある。

【100人委員会での提言内容について】

･老人や子供は移動する手段がないため、本病院や、駅、商店街を巡る周回バスを運営してはどうか。
･バスの待ち時間が長く、お見舞いの人や付き添いの人が、地域でゆっくり休憩、楽しめる場所を作ってはどうか。まちに触れ合うスペースがあるといい。

10：NPO法人ビゴップ

大友　恵子　理事長

【ビゴップの取り組み】

「阿久根を元気にしよう！」と集まった人々により平成19年に結成。イベント企画や交流事業を推進し、情報と元気の発信拠点となることを目的として結成

【事業内容】

食の阿久根交流促進事業
・食に関する案内・販売の「味（み）どころ案内所」開設
・商店街での写真展「魅（み）どころ資源」創出事業

地域資源の魅力情報発信事業
・漁火を見ながら食事をする「漁火でディナー」開催

交流促進事業
・北さつま情報ステーションでの観光、体験情報提供、コーディネート、窓口業務
・旅人の簡易宿泊施設「あくねツーリングSTAYtion」

地域資源活用事業
・トライアル大会、森林体験、トライアル指導者養成
・わんぱく農園、体験型観光コーディネート

イベント部門
・各種イベント企画・主催・運営

【NPO活動について】

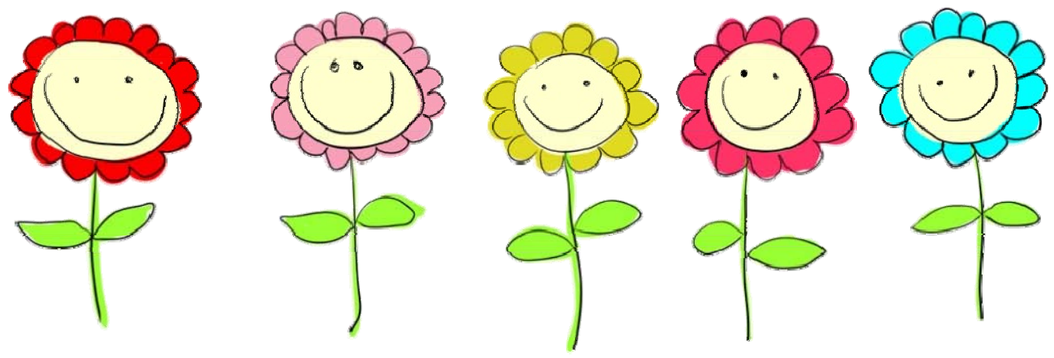
·地域のがんばっている人を支えるために情報交換の拠点づくりやつなげる役を行なっている。
·事業を行うだけでなく＜中間行政＞としてまちづくりの歯車の軸となっていきたいと思っている。
·NPOとして中立を保っているので、阿久根のまちづくりの中間コーディネータとして、いろいろな方が協力してイベントができるよう橋渡しをしていきたい。
·ビゴップでは、全国の人たちともネットワークが広がっており、農業やスポーツ、観光イベントなど幅広い領域の運営や企画にも対応できる組織となっている。子供や老人を預かって、大人にも遊んでもらう複合的な事業も行なっている。
·ブルートレインは基本的にライダーハウスの素泊まりで、一般の観光客には、旅館を勧めるなど住み分けを行なっている。
·阿久根の広域観光ルートの案内や＜食＞＜食事＞＜医療＞＜福祉＞＜観光（温泉やおみやげ）＞の情報支援を行い、「阿久根に情報センターがある」という認識をしてもらえるようになった。
·今では、観光客のリピーターの他、ボランティア活動のリピーターもいる。リピーターから、定期的な滞在となり、そのまま定住する人々も増えている。
·ボランティアでは1ヶ月単位で滞在する人もいて、ボランティアの育成やスタッフ派遣を行なっている。
·NPOの趣旨や内容を地域の方々に理解してもらうことが難しい。協働やボランティアの認識や理解が地域や行政にも行き渡っていないため、NPOが活動できる環境と人を育てなくてはいけない。

【まちづくりの意見】

·観光産業とは＜つなげ・まとめる＞産業なので、NPO事業の理解と活動を進めたい。
·阿久根の起伏のあるすばらしい海岸線や無人島など観光資源が眠っており、観光資源になるが、漁業の規制で活用できていない。
·これを活用するためには、地域が一体となって取り組み、受け入れる素地をつくることが必要。
·観光の活性には農業と漁業など、異なる業種が手を組んで、連携する姿勢を示していくことが必要。
·数ある体験事業を阿久根で連携するともっと活性化できる。情報窓口を一本化することが大切。
·滞在している旅人と地域の人とをもっと触れ合える機会を増やしていくきっかけづくりが必要。
·行政がやりたいこと、民間がやりたいことではなく、協働してやっていく場をつくることが必要。
·まちづくりのイベントは＜継続＞して＜地域が協力＞してはじめて＜結果＞が生まれるものである。
·昔の行商を習って、阿久根市街地のいろいろな場所で、屋台などのイベントができるよう、組み立て式の屋台とそれを貸出、保管する倉庫を駅周辺につくってはどうか。
·自転車競技の練習場や専用レーンをつくってほしい。

【駅前広場について】

·駅前広場は、県や市、おれんじ鉄道など、せまい土地に様々な管理主体があり複雑すぎて、イベントがしづらい場所である。窓口を一本化してほしい。
·ブルートレインは、阿久根の歴史を形づくるもので、阿久根の顔として見せる工夫や公園化などで活用する展開をしてほしい。
·阿久根駅の中に観光だけでなく、医療や福祉の案内できる場所をつくる。
·駅の東西を結ぶ歩道橋を整備するとともに、子供たちも歩きたくなるような工夫（落書きできるなど）を盛り込んだ歩道橋を整備してほしい。
·放課後の子供たちを自由に預かる場所や、学生を対象とした交流カフェなど、駅舎を子供も集まる場所としてほしい。



チャレンジ・リスト

アクティブ！物つくり！癒しなど、わがままにチャレンジする。
オーダーメイドな体験メニューを提供します。

北さつま情報ステーション

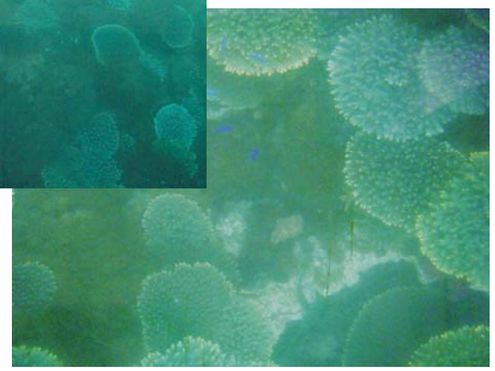
ＮＰＯ法人　Big up（ビゴップ）

海メニュー

釣り

ビーチバレー

イルカ＆サンゴ



サーフィン

食メニュー

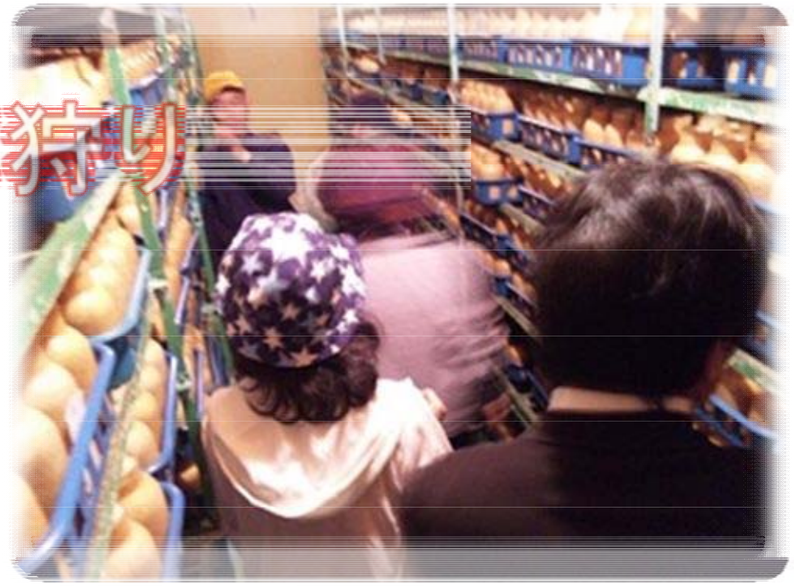
物つくり

収穫

クワガタの幼虫掘り

みかん狩り

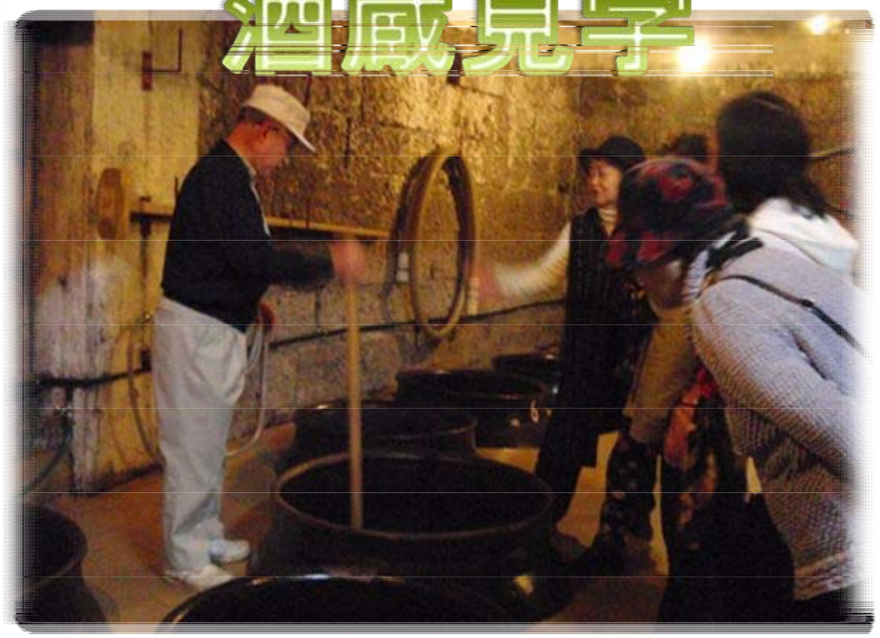
エノキ茸狩り



見学

あくね大島
パワースポット巡り

酒蔵見学



11：阿久根市策定委員（1/2）

【まちづくりの意見】

・「活気」といえば、やはり人が集まることが大きな基本である。市民はもちろんのこと、市街からもその魅力に引かれ、自然に人が集まってくれば、自ずと活気がでてくる。「この街を歩いてみたい」と思わせるような、「魅力あるまち」にするためには何が必要なのか。

・今、人は「癒しの心」を求めにやってくる。仕事で疲れた心を癒す場所、苦しいことを忘れさせる場所、それでは、この駅周辺でできるのは何があるのか。

・下関市地方卸売市場「唐戸市場」を観光する機会があった。2度目の見学であったが、いずれの時も観光客（地元の人で食事のために来ていた人もいるかもしれないが）が多く、その賑わいぶりに圧倒される感じであった。

・（観光）市場を造ることによって、阿久根で獲れる魚を使った観光客の誘致をはじめ、今後西回り高速自動車道の開通による市街地等の沈下を防ぐ手立てにもなるし、また、市民の所得向上につながっていくものと考える。

【健康とまちづくりについて】

・少子高齢化が進み、高齢者及び障がい者の占める割合は確実に高くなるため、元気な高齢者を増やす対策が求められる。駅周辺には、晴海公園でグランドゴルフをする方々やウォーキングをされる方々も多く見られる。潮風を受けながら健康づくりのできる拠点づくりを行う。

・イベントを開催しても、一時的には観光客が増えるかもしれないが、阿久根の活性化のためには、市民がそこを歩き、行き交うことが必要と考える。医（医療、介護、子育て、健康等）と商（商店街）が連携して、生活感のある（＝人が行き交う）駅前商店街づくりができればと思う。

・ノーマライゼーションの理念に則り、施設のバリアフリー化はもちろん、色彩についても、ユニバーサルカラーを取り入れるなど、すべての人にやさしいまちになるようにお願いしたい。

【駅前広場について】

・駅前ロータリーについては、市民の憩いの場としてベンチと、花壇及び阿久根の木ボンタンとツワブキその他、四季の花の咲く花壇が望ましい。

・大型看板等については、許可を出さないことを前提に進める。看板等の老朽化について、誰が解体するのか。また、後の維持管理をふまえシンプルにした方が良い。

・敷地が県道でもあるので、計画規模の協議、たとえば駅からベンチ等に行くところの横断歩道等、公安委員会の協議が必要と思われる。

・まず国道３号沿いのアーケードの改修等を行ったうえで「国道沿いに置かれたフラワポットのきれいな花」で迎え「きれいな海を見て歩き」「市特産物の買い物をして」「市産物を材料にしたおいしい食事をする」地域の実現を図る。

・駅に降り立ってすぐに、「自然と共生するまち」であることを体感できるような駅前整備を図る。

11：阿久根市策定委員（2/2）

【駅前周辺市街地について】

・阿久根市に3件エリア内に温泉あるが、温泉資源を取り込んで宣伝やまちづくりを進めることが出来ないか。

・空き店舗を利用して、高齢者のコミュニケーションの場を作り、放課後には、そこに小・中学生も立ち寄り、世代間交流ができるような場所づくりを行う。

【新港・臨海通りについて】

・通常、漁港の近辺はもっと活気があってもよいのだが、イワシなどの漁獲量の大幅な減少の影響だろうか、寂しさを増す一方である。

・駅前周辺の整備について、ぶえん館もあるが、地域産業の農産物、水産物等の販売とレストラン、海の駅等の実現も踏まえ、検討していく必要がある。実現には、市内の飲食店の意見を聞く必要がある

・新港には「ぶえん館」が既に設置されていることから、この「ぶえん館」を中心に、その周辺で魚や野菜などの市産物を販売する百縁市や軽得楽市など、土曜日や日曜日などの午前中に開催するなどしたらどうか。

・ぶえん館中心ではなく、一つのエリアとして取り組む必要がある。

・「海を見て歩く」コースは、足に負担をかけないようなコースの改修や着色等を行い「癒しロード」とか「健康ロード」などの名称をつける。

・本市も規模は小さくても港を抱えており、しかも水産加工団地の空き地もあることなどから、それを利用した市場等ができないものか

・「新鮮お魚まつり」等とも連携させたものが可能であれば、魚を買ったり、食事をしたりと賑やかな空間が造り出せるのではないか

【旧港について】

・一番のポイントは「旧港」の跡地の利用である。この跡地を更地にして、この場所に「特産品販売と食事」を目的とした「海の駅」なるものを建設したらどうか。

・旧港は阿久根駅からの距離が遠いことから、回遊ルートの工夫が必要になる。

11:阿久根市策定委員(参考資料)

唐戸市場

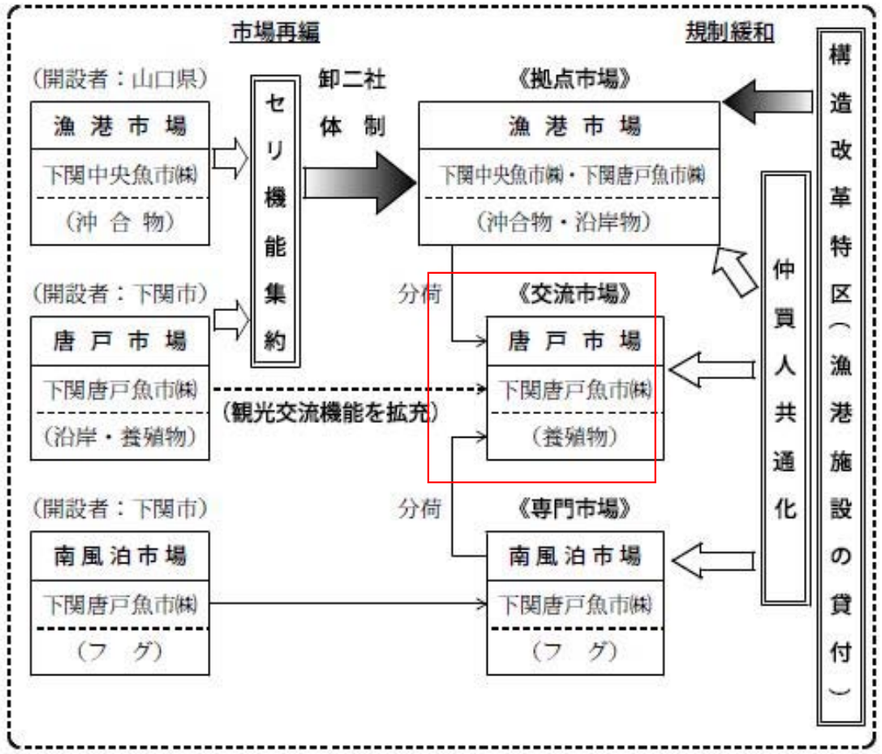
唐戸市場は、大正１３年、阿弥陀寺町の魚市場が唐戸に移転され、唐戸魚市場と呼ばれるようになったことに始まり、昭和８年「下関市唐戸魚菜市場」として開設され、当時から下関市を代表する「ふく」のほとんどが当市場に出荷されており、日本一の「ふく」の市場として全国にその名をとどろかせるようになった。

戦後は、昭和２５年に現在の卸売業者である「下関唐戸魚市㈱」が設立され、昭和３７年には売場を埋立地に拡張し、昭和４０年日韓漁業協定の締結を契機とする東海・黄海でのフグはえなわ漁船の操業によって、フグの取扱量は飛躍的に増大した。昭和４８年には、「下関市地方卸売市場」に改称、翌４９年に現在の南風泊市場が完成し、フグの取扱をすべてここに移した。

以後、唐戸市場は「市民の台所」として、沿岸物、養殖物を主体に仲卸業者による地元への供給の役割を果たしてきたが、施設の老朽化と駐車場の不足等から新市場建設に踏み切り、仲卸機能を強化するとともに、品揃えや鮮度保持等消費者ニーズに対応した市場を平成１０～１２年度事業で整備した。

しかしながら、北九州市場等との市場間競争が激化する中で、その後も取扱量は減少し、市場機能が低下してきたことから、市内３市場の再編の一環として、唐戸市場を「交流市場」と位置付けて機能強化を図ることとなった。具体的には、セリ機能を漁港市場に移管し、当市場は養殖物等の相対取引のみで卸売市場としての機能を存続させるとともに、仲卸店舗を充実し、小売店への販売のみならず、観光客や一般消費者に対し直接販売できるよう市の条例改正を行うこととしている。

当市場のある一帯は「ウオーターフロント」として市の観光コースに組み入れられており、水族館、フィッシャーマンズワーフと並んで唐戸市場は観光機能の一端を担っており、今回の市場再編は観光面からの経済効果にも大きな期待が寄せられている。



下関地区水産活性化特区資料より抜粋

■現在は、毎週末と祝日に「活きいき馬関街(ばかんがい)」を開催中です。この「馬関街」は魚食普及を目的に魚を楽しんで食べてもらうための飲食イベントとして開催しており、旬の魚をリーズナブルにお買い求め頂けるほか、多数の海鮮屋台が出店し、出来立ての魚料理を味わって頂ける、目にも舌にも楽しいイベントとなっております。

また、唐戸エリアで取り組む元気な街づくりの一環として、唐戸市場まつりを4月の春まつり、10月の秋まつりとして開催し、「食」のフエスティバルを行っています。

■唐戸市場をより楽しむための散策術、それは「会話のある買い物を楽しむ」ことです。最近では一大グルメブームに乗って、若者はもちろん、外国人観光客にも人気の観光スポットになっている唐戸市場ですが、この市場の真の魅力は、実は“安くておいしい魚”よりも、“市場で働いている人たちとの会話のある買い物”が味わえることです。

■また、「魚食塾」を開催しており、唐戸市場で魚を美味しく食べる技を伝授します。魚料理に挑戦するときめきと充実した感動はワクワクした思い出としていつまでも心に残ることでしょう。

唐戸市場ホームページより抜粋